

平成29年度
事業報告

平成 29 年度は、新しい時代に対応した社会福祉法人の組織運営に取り組んだ。改正社会福祉法で示された経営組織のガバナンス強化、事業運営の透明性向上、財務規律の強化を踏まえ、各種手続きを整備した。また、改正法で打ち出された福祉人材の確保の促進では、法人内に委員会を設け人材確保と育成に努めた。

新聞というメディアを母体に誕生した事業団の使命として、29 年度に発生した九州豪雨災害、さらには東日本大震災の救援金受け付けに取り組み、被災地・被災者支援にあたった。地道なボランティア活動を顕彰する「産経市民の社会福祉賞」、障害者芸術に光をあてる「産経はばたけアート公募展 2017」、チャリティーコンサートやチャリティーイベントなど、多彩な催しも展開した。心臓病の子供を救う「明美ちゃん基金」は、事業団の柱のひとつとして事業活動を行った。

施設・事業所は、障害のある利用者が安心して安全な生活を送れることをモットーにした運営に努めた。給食提供事業は新しい業者に委託されたのを受けて、より利用者視点に立った食生活や健康管理の充実を図った。利用者の日中活動の充実、支援員の各種研修への参加などにも力を入れた。また、行政や社会福祉協議会、地域の福祉関係者とのネットワークづくりを強め、地域移行の推進、地域との交流促進など地域に必要とされる施設・事業所を目指した。

大阪府能勢町の障害者支援施設「第 2 三恵園」は、施設内にある介護用トイレの改修を行った。利用者の加齢に伴う心身機能の低下と介護度の進行に対応した生活環境の整備の一環。同じく能勢町にある就労継続支援 B 型事業所「すみれ工房」は、同町栗栖に取得した用地で造成工事を行い、早期の建設着手に向けて動き出した。

(1) 事業団本部の事業概要

■九州豪雨で 3900 万円寄託、東日本大震災も継続

平成 29 年 7 月に九州北部を襲った豪雨災害では、被災された人たちを支援する善意が全国から寄せられた。救援金は総額 3915 万 1158 円にのぼり、被害が大きかった福岡県朝倉市と東峰村、添田町、大分県日田市に送った。

平成 23 年 3 月の発生直後から続いている東日本大震災の救援金募集は、29 年度も継続して受け付けた。救援金は被災した子供たちを支援する「いわての学び希望基金」「みやぎこども育英募金」「ふくしまこども寄附金」にそれぞれ 200 万円、計 600 万円を寄託した。第 11 次配分となる 29 年度分の寄託で、被災地・被災者に送られた救援金総額は計 10 億 7160 万円となった。

■産経市民の社会福祉賞

障害のある人や高齢者、子供たちに寄り添いながら、地域福祉に貢献している団体・個人を顕彰する第 43 回「産経市民の社会福祉賞」の表彰式を平成 29 年 11 月 20 日、大阪市北区の新阪急ホテルで行った。29 年度の受賞 3 団体に対し、産経新聞厚生文化事業団の佐藤義博理事長から表彰状が贈られた。式には約 100 人が出席。選考委員のボランティアリズム研究所の岡本榮一所長が 7 人の選考委員を代表して選考経過を報告。受賞者の活動報告も行われた。

受賞したのは、聴覚障害のある人々に情報を提供するとともに朗読ボランティアを広げる活動も行っている「和歌山グループ声」（和歌山市、西山基子代表）、東日本大震災で関西に避難した人と支援者、避難者同士をつなぐ取り組みを図る「東日本大震災県外避難者西日本連絡会（通称：まるっと西日本）」（大阪市中央区、古部真由美代表）、外国人の大人と子供への日本語学習支援を通して地域共生を目指す「こくさいひろば芦屋」（兵庫県芦屋市、辻本久夫代表）。

■産経はばたけアート公募展

障害のある人たちのアート作品を募集、展示し創作活動を支援する「産経はばたけアート公募展 2017」が平成 29 年 9 月 16、17 の両日、大阪市北区のブリーゼブリーゼで開かれた。全国から 153 点の作品が寄せられ、審査会で選ばれた最優秀賞の大賞と優秀賞、佳作合わせて 18 点が展示された。16 日には表彰式を行い、佐藤理事長から表彰状が贈られた。会場には多くの人々が訪れ、「固定概念を超えて、自由に描いているのが素晴らしい」などのコメントがあり、色とりどりの作品群に見入っていた。

■チャリティーコンサート

平成 29 年度の「帝国ホテルの音楽會」は大阪市北区の帝国ホテル大阪内のチャペルで計 14 回開催した。コンサート入場料の一部は同ホテルから事業団に寄託され、社会福祉に役立てられた。

大阪市北区のホテルエルセラーン大阪では、29 年度に「名歌繚乱チャリティーコンサート」を計 12 回開催した。入場料の一部は、社会福祉に役立てるため事業団に寄託された。

■チャリティーイベント

よしもとクリエイティブ・エージェンシーと松竹芸能のタレントらが漫才、落語などを披露するチャリティーショー、第47回「お笑いなにわ祭」は平成29年6月3日、大阪市天王寺区の大阪国際交流センターで開催。障害者施設や高齢者施設の利用者や一般市民ら約700人が来場し、笑いに包まれた。収益は社会福祉のために役立てた。

有名作家の作品を展示・販売する「チャリティー絵画展」は29年7月、大阪市北区のギャラリー大井と西武百貨店の協力により大阪府高槻市の西武百貨店で開催した。収益金の一部は社会福祉に役立てられた。

■明美ちゃん基金

平成29年度の主な事業として医療助成事業では、心室中隔欠損症を患うフィリピンの男児（2歳）を平成29年8月に受け入れ、大阪府吹田市の国立循環器病研究センターで治療した。また、国内で心臓移植手術を受けた3人の児童に対し支援を実施した。活動助成事業では、10月に「サンケイー高尾シンポジウム」に助成金を、ミャンマーショートステイ事業（5月、8月、12月）として医師の渡航費用の助成を行った。

自主事業では、ミャンマー国立ヤンキン子供病院のICU医師2人を研修目的で3カ月間、国立循環器病研究センターに受け入れた。また、内科医1人を同じく1年間にわたって東京都新宿区の東京女子医大病院に受け入れた。29年9月と30年2月にはミャンマー渡航治療を実施し、内科チーム計9人、外科チーム計15人の医療団を編成し、2回の渡航治療でカテーテル治療61症例、外科手術17症例、合計78人の子供の治療を行った。これでミャンマーでの治療実績は204人となった。

(2) 各施設・事業所の事業概要

救護三恵園

■利用者の生活を支える

利用者一人ひとりのニーズを尊重し、その人のできることを把握して支援を行った。こうした寄り添う支援によって利用者が自信を持ちながら毎日の生活を送れるようにした。

■日中プログラムの充実

利用者それぞれが興味をもって参加できるよう日中プログラムを増やした。日中のプログラムを充実させたことでそれぞれの活動が広がり、生活の安定にもつながった。とりわけ、高齢の利用者に対しては手先を使ってのものづくりやリハビリを強化した。

■地域移行後の継続的支援

利用者が退所後も継続して地域で生活が送れるよう相談の電話などがあった場合には本人の話を傾聴し、ときにはアドバイスをした。また、訪問によりその人の状態を把握した。具体的には6人に対して訪問6回、電話対応を5回行った。

■地域貢献活動への参画

能勢町社会福祉協議会が実施する町内の独居老人に向けた地域活動「ふれあい給食」サービスに参加した。平成29年度は431食の弁当作りを実施した。

第2三恵園

■施設環境の整備

利用者の高齢化に伴いトイレや洗面所の改修を実施。手すりや車イスでの利用で使い勝手が良いよう工夫し、座位保持や移動の際のサポートに対応することができるようになった。壁などの仕様も清掃が容易にできるようにし、衛生面での環境向上につながった。

■地域移行の推進

男女1人ずつがグループホームで新しい生活をスタートさせた。また、家族の高齢化に伴って利用者の将来に向けての生活保障を念頭に後見人申請を進め、3人の申請をサポートした。

■各種研修への積極参加 高齢特化施設として介護技術、障害特性の観点から研修に積極的に参加し、高齢期を迎えた利用者支援の専門性の向上に努めた。また、利用者の事故防止、リハビリ、権利擁護については、施設内に設けた委員会の活動を強化し、特に虐待防止・権利擁護では法人委員会活動と外部の権利擁護委員会にも参加して、人権意識の啓発、向上にあたった。

大里荘

■余暇の充実を図り、生活の満足度を高める

土日祝日の利用者一人ひとりの余暇の過ごし方を個別に設定し、今できることより、「ちょっと頑張ったらできること」を目標に行った。買い物先への行き方確認や買い物練習によって一人での品物選び、お金の出し方、交通機関の利用練習によって、より遠方への外出練習を実施。ホーム内では、絵を描くための道具を揃え、できることを探しながら自分の時間を有意義に過ごし、できた喜びをともに喜び合える支援ができた。また、ボランティアや世話人による料理やおやつ作り、小物作りも定期的に開催し、ホーム内での余暇活動も支援できた。

■高齢者の暮らしを支える

入居利用者の3分の2が65歳以上、2分の1が70歳以上という高齢化に伴い、月2回の医療機関の来診と看護師による週2回のホームへの巡回訪問が実施でき、病気の早期発見、早期治療につながった。健康診断の結果を踏まえ、年1回の大阪府能勢町の栄養士による食事材料のチェックと食事メニューの提案も実施し、健康的な食事の提供に努めた。

■消防設備の充実

消防法改正により、平成30年3月末までに自動火災通報設備を17ホーム中15ホームに設置が完了。29年度建設に着工に漕ぎつけた2ホームについては、30年度の開設と同時にスプリンクラー設備も設置。今後も安心・安全を担保できるホーム運営に取り組んでいく。

なごみ苑

■元気に生き生きと暮らす

移転して2年目の平成29年度は活動の幅も広がり、利用者の毎日の日課となっている体操と歩行は、パーソナルスペースが広がったことにより笑顔で励む利用者が増えた。暑い日も寒い日も欠かすことなく継続することで、体力の維持と脚力低下の予防、そして健康維持に努めた。

■日中活動の充実

利用者の元気の源となるのは、自主製品を販売し自分の作ったものが売れたことを実感したり、創作品を事業所内に展示し来訪者に見てもらうことにあり、こうした自主生産、創作活動を充実させた。今後も利用者の活躍できる環境を整えることを意識した事業所運営に努めていく。

■地域との交流

住民との地元交流を目的として、平成29年7月22日に初めての「なごみ苑夏祭り」を開催した。近隣に開催案内のチラシを利用者と配り、当日は近隣住民が子供も含めて40～50人が訪れた。模擬店として、くすのき学園のうどん、すみれ工房のミニお好み焼き、たんぽぽの家のホットドック、なごみ苑利用者によるゲームコーナーなどを設け、法人OBもボランティアとして参加。近隣住民との会話も弾み、8月に開催の地域の祭りに誘いを受けた。地域とのつながりの輪は徐々に広がってきた。

すみれ工房

■事業所の用地整備完了

新しい事業所の用地整備はほぼ完成し、実施設計の作成など移転事業を進め、早期着工、早期完成を目指すことになった。新事業所は、作業の向上と衛生面に配慮した設備とし、地域とともに成長していく事業所を目指す。

■施設外就労の機会増大

厚生労働省と農林水産省がアジテーターとなり、大阪府が「農福連携」に取り組む事業「農業インターン」に参加した。農業インターンは、農家・農業法人が受け入れ先となり、福祉施設の障害者が農作業の研修を受ける事業で、将来的に障害者雇用・就労を目指す。農業インターン中の利用者の仕事に取り組む姿勢が認められ、受け入れ先から野菜の提供をしてもらえることとなった。また、能勢町の活性化を目的とした「銀寄委員会」主催の能勢マルシェに2カ月に一度参加し、施設外での販売など就労の機会を増やした。

■就職希望者に対する支援の強化

就職を希望する利用者1人を大阪府箕面市障害者雇用支援センターへ、また別の利用者1人を兵庫県川西市にある就労継続支援A型事業所「クローバー」へ移行。平成30年2月には利用者全員で、京都府与謝町にある就労支援A型事業所とB型事業所が併設されている多機能型の障害者就労施設「リフレかやの里」の農産加工所を見学した。そこで働く障害者の作業を見ることにより、就職を希望する利用者の意識が向上した。

■利用者に考慮した作業環境の整備

長く立ったままの作業が難しい利用者に対して、イスに座った状態でできる作業に変更した。また、各利用者に合う作業にするため、工程を細分化した。高齢でも体力がなくても、一緒に働く一員であると感じられるような役割を見い出すようにした。

たんぽぽの家

■給食の開始好評

平成29年5月から利用者に対し給食を始めた。これまでの弁当持参とは違い、温かい昼食がとれるようになった、と家族からも好評を得ている。

■地域との交流機会の強化

定期的にボランティアが来所し、利用者の作業の補助を行ってくれた。また、イベント時にもボランティアが手伝いや音楽演奏などで力を発揮した。平成29年度は豊能町社会福祉協議会を通じてのボランティア来訪もあり、今後も関係強化に努めていく。町内保育所や小学校との交流や授業の機会では、利用者が主体的に自分の仕事や生活について伝えていけるようにした結果、かかわった利用者の名前を覚えてもらえるようになってきた。

■移動販売車「喫茶たんぽぽ号」の活用

平成 29 年度には、豊能町内にある志野の里、北摂霊園などの新規出店先を得て、積極的に出かけた。地域住民に喫茶たんぽぽ号で働く利用者の姿を見てもらい、たんぽぽの家のことでも知ってもらおう機会につながった。

■実習生の受け入れ

従来から受け入れをしてきた介護体験実習に加え、29 年度は初めて保育実習、ソーシャルワーク実習の受け入れを行った。実習生との振り返りなどを通じて、職員にとっても学びの機会となった。

池田三恵園

■自閉症者支援の強化

平成 29 年度は外部の専門家を招いて勉強会を行った。職員が自閉症者支援の基礎をパワーポイントで説明し、その後、専門家からアドバイスを受けた。新入職員や異動してきた職員が増えたことから、「なぜ?」「誰のため?」「何のため?」を問いながら支援を行った。

■日中活動の充実

日中活動のひとつである陶芸では、妙見山、嵐山とかわらけ投げのかわらけを作り、毎月 2300 枚を納品した。「ほっこり広場」では、絵付け体験を実施した。ポスティングでは、利用者が仕事ととらえ積極的に参加している様子が見られた。地域住民から「ご苦労さん」と声をかけてもらうことも増えてきた。

■地域との関わり

福祉学習として、中学校の体験学習や高校の人権学習、大学の講習に対して利用者が講師となり、「私の生活」について話をした。ここで得た講師料は、利用者本人の工賃とした。2 月に 1 回行っているオープン施設では、短期入所を利用したい人や子供が見学に来て施設がどんなどころかイメージをつかんでもらった。オープン施設が少しずつ認知されるようになり、相談事業所の紹介で訪れるケースも増えた。

伏尾台ホーム

■グループホームでの生活充実

利用者には牛乳やパン、野菜などの買い物に出かけたり、散歩で近隣を歩いたり、毎日のリハビリを頑張るなど、その人にあったプログラムを考えて実施した。利用者本人の 1 日のスケジュールも見直し、これまでの生活にプラスアルファすることで余暇を充実させた。

■地域との連携強化

地域の夏祭り、運動会、防災訓練などに積極的に参加し、地域の人に顔を覚えてもらう機会を多く設けた。親睦会「にこにこ会」では、地域の住民も同席してもらい、地域の情報を教えてもらった。

■関係機関との連携

グループホームのメンバーに関係する事業所との連絡調整や情報共有を行い、利用者本人が安心・安全に暮らせるサポートを行った。大里荘とのグループホーム合同会議で世話人研修会を開催した。グループワークでは、「あなたが幸せを感じる時」のテーマで話し合いを進め、利用者にとっての幸せが何なのかを考えた。

こすもす

■健康的な生活を目指した支援

健康的で充実した生活を利用者が送るために、専門職（医師、看護師、理学療法士、歯科衛生士）らのアドバイスを受けながら、運動を取り入れた活動プログラムを組み、心身の健康と身体機能の維持に努めた。また、安全で過ごしやすい環境づくりを進めた。グループホームと連携して、生活に必要な動きを想定し、こすもす内での活動に取り入れ、地域で暮らすことを支えた。

■個別プログラムの充実

「やりたいこと」や「楽しみ」を取り入れたメリハリのある生活リズム作りを支援するために、新しい活動を提供しながら、選択肢を増やして個別プログラムの支援を行った。また、さまざまな体験を重ねながら、一人ひとりが一つでも多くの「やりたいこと」や「楽しみ」を見つけて、充実した生活を送れることを目指した支援を進めた。

■「働く」を見つける支援

「やりたいこと」や「できること」から、一人ひとりの「役割」や「働く」につながる取り組みを行った。社会参加の機会につなげるため、新たな活動として、内職作業やリビング新聞の配布などの作業を受注した。

■地域への情報発信

地域で開催されるイベントへの参加をはじめ、オープン施設を開催した。実習生の受け入れなど、利用者が施設以外の人と触れ合う機会を活用して、障害のある人の生活を伝え、本人を中心とした人の輪づくりに努めた。

池田市立くすのき学園

■就労移行支援

平成 29 年度は 4 人でスタート。4 月末と 11 月末に 2 人が就労継続支援 A 型事業所に異動した。一般企業への就職にはつながらなかったが、利用者本人の「働きたい」「働く」に寄り添い、就職に向けて本人の特性を細やかにアセスメントをすることに努めた。

■就労継続支援 B 型

平成 29 年 9 月末に 1 人が就労継続支援 A 型事業所に異動した。本人の課題に着目するだけでなく、一人ひとりのニーズに寄り添い「働きたい」というモチベーションが維持できる

よう支援し、目標達成できるように努めた。作業量の安定と一人ひとりの作業精度向上に伴い、わずかだが工賃アップにつながった。

■生活介護

生産性を上げるための「働く」にとらわれず、一人ひとりがくすのき学園での役割、やりがいを感じ、毎日楽しく通えるように個別プログラムも作成して日中活動の場の環境整備に努めた。また、日々の生活の充実と自立に向けて意義のある活動につながるように、作業の幅を広げて選択できる機会を設け、園内作業だけでなく、地域に出て地域とつながり、作業を通して社会参加することを意識した「働く」に着目した支援を行った。

■地域に向けての情報発信

フリーペーパーのポスティング作業やアルミ缶回収作業、イベント出店を通して地域での活動を増やしていくことで、くすのき学園自体や障害のある人、さらには活動内容を知ってもらうなどの情報発信に努めた。アルミ缶回収では、回収先の拡大につながり、地域の方から「くすのき学園移転」という言葉も聞こえてくるようになり、少しずつだが知ってもらえることにつながった。

ワークスペースさつき

■利用者支援の充実

利用者の行動を常に「なぜ？」という疑問を持ち、一人ひとりの障害特性や成育歴などを含めて行動の背景を考えた支援を行った。また、個々の利用者に役割を担ってもらい、事業所という集団の中でお互いが認め合うことで自己有用感が高まるような支援をした。これと並行して、職員の支援力向上のため、自閉症関係、人権・権利擁護関係など外部研修に積極的に参加したり、定期的な事業所内研修を実施したりした。

■生活の質の向上

事業所だけで支援するのではなく、相談事業所などの関係機関と連携した包括的な支援提供に努めた。その結果、「当事者にとって本当に良い環境は？」と考え、就労継続支援 A 型事業所、就労継続支援 B 型事業所、生活介護事業所への移行を 1 人ずつ行った。

■新たな作業提供

新たに池田市からの委託作業として土のう作成作業、兵庫県猪名川町の農家から丹波枝豆、丹波黒豆の選別作業を受け請け負ったことで作業の幅、安定した工賃支給につながった。また、作業場の電気照明の LED 化やエアコンの改修工事を行い、個々の利用者の障害特性も考えた作業環境の見直しにも努めた。

■地域啓発・社会貢献活動

地域の中学校の福祉体験や高校の人権ホームルームに職員と利用者が参加した。また、継続して週 2 回、事業所周りの公園清掃を行うなど、地域啓発を進めるとともに社会貢献の一躍を担っていく取り組みにあたった。

福祉相談「くすのき」

■相談支援事業の一層のPR

地域には人との関わりを必要としながらも支援につなげていない人もおり、課題が深刻化する前に、そのような人に早期にアプローチしていけるよう、相談支援事業のさらなるPRを行った。普段から各関係機関に積極的に足を運び、顔の見える関係づくりに努めた。将来の支援につながるネットワークの構築に今後とも力を注いでいく。

■統一した支援目標で関わる

「サービス等利用計画」を通し、関係機関がそれぞれの専門性を発揮して本人とともに歩む支援目標を共有しながら、同じ方向性で関わっていけるようサービス担当者会議などを開催し、調整を行った。今後も各関係機関と連携し、多様な視点で支援を実施していけるよう相談活動を行う。

■個別の相談事例から社会資源への提言

相談支援専門員3人体制で池田市、豊能町、能勢町で障害のある人のさまざまな相談ごとに応じた。相談者との関わりから地域の課題について考え、地域自立支援協議会をはじめ、あらゆる場を通じて、社会資源の提言を行った。

平成 29 年度に開催した理事会・評議員会

理事会

29 年度は理事会を 6 回開催。全案件について可決、承認された。

【第 1 回理事会】

産経新聞社 8 階会議室で 29 年 5 月 29 日 13 時 30 分から開催。

- ◇第 1 号議案 理念の改定（案）に関する件について
- ◇第 2 号議案 明日への旅立ち基金固定資産取り崩しに関する件について
- ◇第 3 号議案 平成 28 年度事業報告（案）に関する件について
- ◇第 4 号議案 平成 28 年度決算（案）に関する件について
- ◇第 5 号議案 定款細則（案）に関する件について
- ◇第 6 号議案 経理規定の改正（案）に関する件について
- ◇第 7 号議案 役員等報酬規程（案）に関する件について
- ◇第 8 号議案 役員等報酬（案）に関する件について
- ◇第 9 号議案 理事・監事の推薦（案）に関する件について
- ◇第 10 号議案 明美ちゃん基金運用規定（案）に関する件について
- ◇第 11 号議案 平成 29 年度補正予算（案）に関する件について
- ◇第 12 号議案 平成 29 年度定時評議員会の開催に関する件について

<報告事項>

- 東日本大震災救援金について
- 熊本地震救援金について
- 第 47 回「お笑いなにわ祭」について

【第 2 回理事会】

産経新聞社 8 階会議室で 29 年 6 月 26 日 15 時から開催。

- ◇第 1 号議案 理事長及び専務理事の選定に関する件について

【第 3 回理事会】

産経新聞社 8 階会議室で 29 年 10 月 11 日 14 時から開催。

- ◇第 1 号議案 すみれ工房移転用地造成工事契約締結について
- ◇第 2 号議案 すみれ工房移転用地における電柱等の設置承諾について

<報告事項>

- 職務執行状況の報告について
- 九州豪雨災害救援金について

【第 4 回理事会】

29 年 11 月 8 日書面審議。

◇第1号議案 第2三恵園改修事業の契約締結について

【第5回理事会】

30年1月15日書面審議。

◇第1号議案 基本財産の処分について

◇第2号議案 平成29年度第2回評議員会の開催に関する件について

【第6回理事会】

産経新聞社8階会議室で30年3月14日15時30分から開催。

◇第1号議案 平成29年度補正予算（案）に関する件について

◇第2号議案 平成30年度事業計画（案）に関する件について

◇第3号議案 平成30年度予算（案）に関する件について

◇第4号議案 定款の一部変更（案）に関する件について

◇第5号議案 諸規定の改正（案）に関する件について

◇第6号議案 平成29年度第3回評議員会開催に関する件について

〈報告事項〉

○職務執行状況の報告について

○東日本大震災救援金について

○九州豪雨災害救援金について

評議員会

29年度は評議員会を3回開催。全案件について可決、承認された。

【第1回評議員会】

産経新聞社8階会議室で29年6月26日13時30分から開催。

- ◇第1号議案 理念の改定（案）に関する件について
- ◇第2号議案 明日への旅立ち基金固定資産取り崩しに関する件について
- ◇第3号議案 平成28年度事業報告（案）に関する件について
- ◇第4号議案 平成28年度決算（案）に関する件について
- ◇第5号議案 定款細則（案）に関する件について
- ◇第6号議案 経理規定の改正（案）に関する件について
- ◇第7号議案 役員等報酬規程（案）に関する件について
- ◇第8号議案 役員等報酬（案）に関する件について
- ◇第9号議案 理事・監事の選任（案）に関する件について
- ◇第10号議案 明美ちゃん基金運用規定（案）に関する件について
- ◇第11号議案 平成29年度補正予算（案）に関する件について

<報告事項>

- 東日本大震災救援金について
- 熊本地震救援金について

【第2回評議員会】

30年1月24日書面審議。

- ◇第1号議案 基本財産の処分について

【第3回評議員会】

産経新聞社8階会議室で30年3月30日11時から開催。

- ◇第1号議案 平成29年度補正予算（案）に関する件について
- ◇第2号議案 平成30年度事業計画（案）に関する件について
- ◇第3号議案 平成30年度予算（案）に関する件について
- ◇第4号議案 定款の一部変更（案）に関する件について

<報告事項>

- 東日本大震災救援金について
- 九州豪雨災害救援金について